

## 2015年 LMC 忘年山行（12月16～17日）の報告

### 赤城山 あちらこちら

大沼・赤城神社・黒檜山・駒ヶ岳・覚満淵・鳥居峠・小沼

東京駅発7時24分の新幹線あさま602号で高崎駅まで。東京駅からの乗車は川村さんと阪西さん。東武・野田線の車中で星さんと会い、大宮駅新幹線ホームで石附さんとも合流して、約束のあさま号2号車に乗り込みました。車中があまり混んでいなかったこともあって、3人掛けの座席を回転して向かい合って座れるよう、セットして待っていてくれました。高崎駅で梶山さんが合流。高崎駅から両毛線で前橋駅へ。

前橋駅前で、頼んでおいたジャンボタクシーに乗り、9時50分に赤城の大沼に突き出た半島に鎮座する赤城神社の駐車場に着きました。赤い橋を渡って境内に入ります。

赤城神社では、今年1年の感謝やこれからの登山の安全など、それぞれの思いを祈りながら参拝して、歩き始めました。

一日目。ほぼ予定のコースタイムで歩くことができましたが、黒檜山への登りは傾斜がきつく、岩を踏み越える大きい段差のある道が、黒檜山から駒ヶ岳へと繋がる稜線に出るまで続いていました。

黒檜山から駒ヶ岳への稜線は、アップダウンはあるものの、周りが開けていて眺望もよく、快適なコースでした。黒檜山山頂からは谷川岳や奥日光の山々、尾瀬の燧ヶ岳・至仏山が見えるとか。一つ一つ視認することはできなかつたけれども、きっと見えていたはずです。

天候が良ければ、富士山や南アルプスまで見えるとも書いてあります。

駒ヶ岳からの下りは、何百段かの鉄の階段、木の階段が続いて、その上に雪があったとしたら滑りそうで、一步一步に注意しなければならず、時間が余計にかかったことだろうと思います。

ここに来る前には、雪を踏みながら歩けるかも知れないと期待していたのですが、歩き終わってふりかえってみると、雪がなくてよかつたと思っています。

旅館に着いて、コーヒーを上げましょうか、という女将さんの言葉は全員一致でご辞退申し上げて、靴紐も緩めないまま食堂の椅子に掛け、ビールの栓を抜いてもらって今日一日の山行の無事を祝いました。そうしているところに、所要で出発が遅くなった樋口隊長が到着されて、再度、ビールで乾杯したのでした。

忘年山行ですから、夕食時にはもちろん酒はどんどんいただきます。

夕食の席が終わった後は、女将さんが用意してくれた部屋で、また宴会。そこには、樋口隊長が途中で仕入れてこられた大吟醸の地酒（銘柄は失念）と、石附さんが険しい山道を担ぎ上げ、担ぎ下ろしてくれたお蔭で練られて旨さの増した一升瓶の越乃寒梅、梶山さん手作りの唐辛子味噌とアサヅキがありました。

梶山さんと言えば、ここ数年、腰を痛めて山に登るのを控えていました。今回も、同行しても麓で散歩をする程度だろうと思っていたのですが、二日間の行程をすべて共にして、山歩き復活を果たしました。このことについても、仲間一同お祝いの乾杯をしたのでした。

二日目。夜中強風が吹き続けていました。“赤城風”は寒いものと相場が決まっています。赤城のど真ん中に吹く風は、何と呼ばれているのでしょうか。

そんな寒さの中で、旅館全体が暖房もされているのですが、電気掛け毛布のお陰で暖かく快適に眠ることができました。

朝、外は零下の気温になっています。出発しようと靴を履いていると、一足先に出た阪西さんが山に霧氷が見えると教えてくれました。旅館のすぐ前の大沼池畔に出てみると、昨日登った黒檜山の頂上付近の冬枯れの木々が霧氷で白く変わっていました。

寒かったけれども空は晴れて気持ちよく、覚満淵の風景は、ふっくらとした藁布団のような草もみじと水面の細波が、斜めに射す朝日に光り、綺麗でした。

少し登った鳥居峠の展望台からは、手前の濃い青い山々から次第に薄い青に変わって見える山々が幾重にも重なり、その間には桐生市あたりでしょうか、市街地の眺めも良く、遠く筑波山も見えていました。

鳥居峠から小沼への道は、緩やかに登る良い雰囲気の良い山道でした。登り切るとすぐ眼の下に濃い藍色の水をたたえた小沼が、少しの風に波立ちながらありました。

この場所に立っていた案内板には、大沼は「おの」と読み、小沼は「この」と読むように、仮名がふってありました。別の場所には「こぬま」と書いてあり、古くからの呼び方に統一すれば良いのにと思いました。

小沼の畔では、約束のタクシーの時間まではまだたっぷりあるし、写真を撮ったり、水辺まで下りてみたり、昨夜飲み残していた酒を分けあって飲んで、暖かい太陽を浴びながら休憩しました。

川村さんもいたく感動していたのですが、朝陽を反射した小沼の水面の黄金色と、波打ち際を縁取る薄氷の連なりと砂浜の霜柱の輝きは綺麗でした。

小沼の畔にある駐車場からは舗装の道をしばらく歩き、山道に入りました。低く生えそろうたクマザサの中の明るくなだらかな道を下り、やがてスキー場の下に着くと、タクシーと待ち合わせの場所の赤城ビジターセンターはすぐでした。

前橋駅近くの温泉施設で降ろしてもらい、入浴後、ビールで乾杯して1年の納会の締め括りとしたのでした。

今回も星さんには先導してもらい、遅れがちなペースを無理なく保って全員歩き通すことができました。

同行の皆さん、ありがとうございました。

(勝沼)